

多くの思い出が詰まった古河三高

市長：古河大使として、ふるさとのPR活動をしていただきありがとうございます。古河での思い出を聞かせてください。

樋口：やっぱり古河三高での思い出が一番強く残っています。学校帰りに古河駅周辺で一緒に遊んでいた友達、今でも大切な存在です。高校生になり行動範囲も広がって他県に気軽に遊びに行けるようになりました。昔は気付かなかったけれど、県境にある古河はいい場所だと思うし、そこでの経験は他のまちではできないと思います。

市長：友達と一緒に寄り道して帰るのが楽しい時代でしたね。高校生活ではさまざまな経験をされたのではないですか。

樋口：はい。今考えると、当時は生徒の個性をすごく尊重してもらっていたと思います。そこで、自身の個性が形成された気がします。

このときの出会いや経験が自分にとってかけがえないものだと後で気付きました。若い頃は、早く外に出たいと思っていましたが、古河を離れて、年齢を重ねるごとにこのまちで育って本当に良かったと感じますよ。

市長：あの頃は、自分たちで創り上げようとする校風がありました。球技会では生徒が代表挨拶をしていくくらいですからね。

樋口：そうだったと思います。ただ、土曜日の昼ご飯に出前を頼んだ時はさすがに怒られちゃいました(笑)

映画監督として古河から羽ばたく

市長：たくさんさんの映画制作に関わってきたかと思いますが、特に思い入れのある作品はありますか。

樋口：一番最初に監督した『ローレライ』ですね。映画は依頼を受けて監督することが多いのですが、これは自分の希望で企画を立ち上げました。原作の出版前から小説家と映画化を話し合っていたんです。ただ、撮影が全然思い通りにいかず苦労したことは忘れられないですね。

市長：『シン・ゴジラ』では行政の舞台にも踏み込んでいかれましたね。緊急時の意思決定の難しさなど、行政の視点もしっかり捉えられていたように感じます。

樋口：緊急事態が起きた場合に、大臣や官僚の皆さんがどのように意思決定をするのかを本人たちに取材しました。話を聞けば聞くほど、短時間で国にとっての重要な決断をしている皆さんの優秀さは驚きました。

多くの人たちが知らないこの格好良さを、劇中で表現したいと思ったので、戦闘機などに乗って活躍する人と同じようにスポットライトを当てました。

市長：だからこそ、現実的で緊張感のある描写になっていたんですね。

県境のまちだからこそ多くの利点がある
古河を離れ、年齢を重ねるごとに
このまちで育って本当に良かったと感じる



樋口真嗣 Profile

古河第一小学校、古河第一中学校、古河第三高等学校を卒業。
アニメ制作会社の(株)ガイナックス、(株)GONZOなどを経て、現在はオーバーロードに所属。
1984年に『ゴジラ』の怪獣造形に携わることで映画界に入る。1995年の『ガメラ 大怪獣空中決戦』で特技監督を務め、日本アカデミー賞特別賞を受賞。2012年の『のぼうの城』で日本アカデミー賞優秀作品賞と優秀監督賞、2016年の『シン・ゴジラ』で日本アカデミー賞最優秀作品賞と最優秀監督賞を受賞。